令和2年度
創造調和

令和３年２月26日
半田市立半田中学校
第 17 号
学 校 だ よ り

「卒業の　山河に誓う　志（こころざし）」、芸能人が俳句をつくり、そのできばえを俳句の先生に査定・添削されるテレビ番組で、２０１８年３月にプロゴルファーとして活躍した古閑美保さんがつくり、直された俳句です。古閑さんは「ふる里の　山河よさらば　卒業す」とつくったようです。「誓う」や「志」という言葉に強い気持ちが感じられますね。

愛校作業・校長と語る



柔剣道場の畳を上げて



窓を徹底的に

先日、３年生が愛校作業を実施した。例年なら、定番の「トイレ掃除」「廊下のセンターラインの引き直し」など、顔を寄せ合って、ひしめき合うようにして行ってくれる。思い起こせば、コロナ禍で突然の臨時休業になった昨年度も「愛校作業」はしっかりやってくれた。１０日あまり後の突然の変化を予想もせずに。今年は、コロナ禍をふまえて、雨天案も準備し、屋外の作業が多かった。今年度がそうであったかのように「やれることに心を込めて」行ってくれた。３年生ありがとう。

部活動の時間だったり行事の準備だったり、その本番であったり、生徒の皆さんと言葉を交わすことができなかった。それればかりが理由ではないが、３年生一人一人と校長室で話す機会をつくった。一人５分ぐらいである。質問は三つ、「①もう一度中学校生活ができるならば何をしたい？」「②将来の自分について」「③私（校長）に聞いてみたいこと」である。①は予想以上に「勉強」が多かった。③は話がはずむことが多く、予定時間を超えるものだった。「好きな食べ物・ジブリ作品は？どうして先生になろうと？困難を乗り越えるときはどうしている？苦手をどう克服した？」等である。他にもいっぱいある。「誰一人クツをはかない村に行ったクツ売りがチャンスと考え、村中全員にクツを売り、履かせた話が忘れられません。あれはあった話ですか？校長先生が創った話ですか？」と聞かれたので、「質問の中に答えはある、もう気づいているね、さすが」と答えた。

ある生徒はこう言った、「学校だよりの愛読者です」と。嬉しかった。また、こうも言った「全校集会の先生の話で僕の疑問は解決していますので、改めて聞くことはありません」と。そして、ある人がこうも言った、「３年間で校長先生がどういう人かわかっていますので、今更聞くことはありません」と。いやはや恐れ入りました。もう私を超えていきますね。これを世の中では「出藍の誉れ（しゅつらんのほまれ）」というのでしょう。言葉の意味を調べてみてください。

表彰報告です（敬称略　２月２２日分）

【吹奏楽部】中部日本個人・重奏コンテスト知多地区大会　木管三重奏　銀賞

　同　大会　サクソフォン三重奏　銀賞

【第７１回中日書きぞめ展】　　名誉会長賞　１名　　理事長賞　１名

【半田市造形教育展　出品】　《１年生》２８名

《２年生》２８名

《３年生》２８名

【青少年健全育成に関する標語】　最優秀賞　　１名

【尾張教育研究会書写作品コンクール】《特選》２３名

《優等》５５名

《入選》７８名